

済生会神奈川県病院 緩和ケア科 研修プログラム

I. 目的

緩和医療に関する知識と技量を身につけることにより、下記の医療者を育成する

① 緩和ケア専門医・認定医；

緩和医療関連業務(緩和ケア病棟、在宅緩和ケア、緩和ケアチーム)に従事する医師を育成する

② 緩和ケアに精通したがん治療医；

がん診断時から終末期まで、適時適切な緩和ケアを提供したり相談できるがん診療医を育成する。

II. 特徴

- ・ 緩和ケア病棟での診療に加え、がん治療期の患者、一般病床や外来で苦痛症状緩和の必要な患者の診療・コンサルテーション業務に参加できる
- ・ 機能強化型在宅支援診療所との連携により、在宅緩和ケアを実地研修できる。また受け持ち患者を通して在宅緩和と緩和ケア病棟との連携、地域サポート体制を学ぶことができる。
- ・ 充実したリハビリテーション医療体制があり、がんのリハビリテーションを学ぶことができる。
- ・ 緩和ケア医に必要な腫瘍学やがん薬物療法・支持療法に関する指導体制がある。
- ・ 本プログラム内で地域がん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム診療を学ぶことができる。

III. 募集対象

下記を満たす医師を対象とする

- ・ 医師免許取得者で、後期臨床研修を修了した医師
- ・ 厚生労働省基準の「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」を修了していること
- ・ 臨床研修期間やその後の臨床経験において、苦痛をかかえるがん患者の診療経験があること
- ・ チーム医療を理解し協調性があること

IV. 研修項目

日本緩和医療学会 緩和医療専門医研修カリキュラム Ver1.3 に準じ、当院の特質を活かした研修を行う(別紙)。

V. 研修期間とプログラム

原則として2年間とする（希望と相談により、1年間に短縮もしくは延長可）

1年目

緩和ケア病棟

2年目

緩和ケア病棟

在宅緩和ケア

緩和ケアチーム

（プログラム内での院外研修）

希望に応じて

がんのリハビリテーション、緩和ケア科の一般病床診療、外来化学療法室業務、
精神科リエゾンチーム診療を学ぶことができる

プログラム作成・指導管理責任者；戸田陽子（緩和ケア科部長）

研修項目

一般研修目標 GIO

がん患者のかかえる苦痛を Total pain として理解し、患者家族の QOL の維持向上のために緩和ケアを実践し、またがん緩和医療分野の教育や啓発、臨床研究に貢献しうる能力を身につける。
また自施設および地域の緩和医療従事者間の連携・相互サポートの重要性を認識する。

個別行動目標 SBOs

1. 包括的評価

GIO ; 患者を全人的に理解し、苦痛だけでなく患者の支えとなるものをとらえることができる

SBOs ;

- ① 全人的苦痛の概念について述べることができる
- ② 患者の苦痛を多面的にとらえることができる
- ③ それぞれの苦痛に対し、マネジメントプランを列挙できる
- ④ 患者の希望、信念、価値観等の多様性に配慮し、患者の意向に沿った治療目標を立案できる
- ⑤ 苦痛の早期発見、治療や予防について配慮できる

2. 痛みのマネジメント

GIO ; 患者の痛みを評価し、薬物療法に限らず非薬物療法ほか様々な手段を使い痛みを緩和できる

SBOs ;

- ① 下記について説明できる
 - ・ 痛みの定義 ・ 成因やメカニズム ・ 痛みのアセスメント
 - ・ 痛みの種類と典型的な疼痛症候群 ・ WHO方式がん疼痛治療法 ・ 痛みに対するケア
- ② WHO方式がん疼痛治療法に準じ、痛みに対する薬物療法を適切に選択できる
- ③ 患者の状態に合わせて適切にオピオイドを選択できる
- ④ 必要に応じて鎮痛補助薬を選択できる
- ⑤ 薬物の経口・非経口投与を適切に行うことができる
- ⑥ オピオイドの副作用に対し、適切に予防、処置を行うことができる
- ⑦ オピオイドによる精神依存について理解し、対応できる
- ⑧ 放射線療法の適応を考慮し、適切に施行もしくは専門科に相談・紹介することができる
- ⑨ 外科的療法の適応を考慮し、適切に施行もしくは専門科に相談および紹介することができる
- ⑩ 神経ブロックの適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門科に相談および紹介することができる
- ⑪ 非がん性疼痛を評価し、対応することができる

3. 痛み以外の身体症状のマネジメント

GI0 ; 痛み以外の身体症状について適切な評価を行い、薬物療法だけでなく非薬物療法を含めた様々な手段を使い、症状緩和できる

SB0s ; 以下の症候や疾患に適切に対処できる

- ・ 倦怠感
- ・ 食欲不振
- ・ 悪液質症候群
- ・ 悪心・嘔吐
- ・ 消化管閉塞
- ・ 便秘
- ・ 腹水・腹部膨満感
- ・ 下痢・黄疸
- ・ 吃逆
- ・ 嚥下困難
- ・ 口内炎
- ・ 口渇
- ・ 口腔・食道カンジダ症
- ・ 呼吸困難
- ・ 咳嗽
- ・ 胸水
- ・ 気道分泌過多
- ・ 尿失禁
- ・ 排尿困難
- ・ 乏尿・無尿
- ・ 血尿
- ・ 水腎症
- ・ 褥瘡
- ・ 痙攣
- ・ 皮膚潰瘍・掻痒
- ・ ミオクローヌス
- ・ 麻痺
- ・ 振戦・不随意運動
- ・ せん妄
- ・ 浮腫
- ・ 発熱

4. 精神症状のマネジメント

GI0 ; 精神症状を評価し、薬物療法だけでなく非薬物療法を含む様々な手段を使い症状緩和できる

SB0s ; 以下の症候や疾患に適切に対処できる

- ・ 抑うつ
- ・ 適応障害
- ・ 不安
- ・ 睡眠障害

5. 非がん疾患の緩和ケア

GI0 ; 非がん疾患患者に対し、専門家と協力しながら緩和ケアの適応について検討し、適切に緩和ケアを提供できる

SB0s ; 以下の疾患に専門家と協力して適切に対処できる

- ・ 肝不全
- ・ 呼吸不全
- ・ 心不全
- ・ 腎不全
- ・ 神経、筋疾患
- ・ 認知症
- ・ AIDS

6. 心理的反応

GI0 ; 心理的反応を評価し、適切に対応できる

SB0s ;

- ① 否認や怒りなどの心理的反応を認識し、適切に対処することができる
- ② 悲嘆喪失反応が様々な場面で、様々な形で表れることを理解し、それが悲しみをいやすための重要なプロセスであることに配慮することができる
- ③ 心理的防衛機制について配慮できる

7. 社会的反応

GI0 ; 社会的問題を評価し、適切に対応できる

SBOs ;

- ① 医療保険制度、介護保険制度などの社会保障制度を理解している
- ② 患者や家族のおかれた社会的、経済的問題に配慮できる
- ③ 家族間の問題に配慮できる
- ④ 患者・家族の社会的、経済的援助のための社会資源を適切に紹介、利用することができる

8. スピリチュアルケア

GI0 ; 患者のスピリチュアルペインを正しく理解し、適切に援助することができる

SBOs ;

- ① スピリチュアルペインの代表的なカテゴリーを理解している
- ② 診療にあたり患者・家族の信念や価値観を尊重することができる
- ③ 患者や家族、医療者の死生観がスピリチュアルペインに及ぼす影響と重要性を認識できる
- ④ スピリチュアルペインや、宗教的文化的背景が、患者のQOLに大きく影響することを認識できる
- ⑤ 患者・家族の持つ宗教による死の捉え方を尊重できる

9. 倫理的問題

GI0 ; 緩和ケアにおける倫理的問題を理解し、適切に対応できる

SBOs ;

- ① 医療における基本的な倫理原則について述べることができる
- ② 緩和ケアにおける倫理的問題について説明できる
- ③ 緩和ケアにおける倫理的問題について、倫理原則にもとづいて多職種スタッフと検討できる
- ④ 患者が治療を拒否する権利や他の治療についての情報を得る権利を尊重できる
- ⑤ 治療の中止・差し控えについて、適切に対応できる
- ⑥ 尊厳死や安楽死について社会的議論を把握している

10. 意思決定支援

GI0 ; 患者・家族の意向を尊重し意思決定支援を行うことができる

SBOs ;

- ① アドバンスケアプランニングの概念を述べることができる
- ② 患者・家族と治療およびケアの方法について話し合い、治療・ケアの計画をともに作成できる
- ③ 患者や家族の治療に対する考えや意志を尊重し配慮できる
- ④ 患者の自律性を尊重し意思決定支援を行うことができる
- ⑤ 療養場所を決定する際に必要な情報を提供し、意思決定支援を行うことができる

1 1. コミュニケーション

G10 ; 患者の人格を尊重し、コミュニケーションをとることができる

SBOs ;

- ① 患者のもつコミュニケーション・コーピングスタイルを理解し、適切に対応し援助できる
- ② 悪い知らせを患者・家族に伝える具体的な方法について述べるができる
- ③ 言語的なコミュニケーションだけでなく、非言語的なコミュニケーションにも配慮できる
- ④ 患者に病気の診断や見通し、治療方針について適切に伝えることができる
- ⑤ 患者の希望、意向や価値観について傾聴できる
- ⑥ 患者からの困難な質問や感情の表出に対応できる

1 2. 苦痛緩和のための鎮静

G10 ; 苦痛緩和のための鎮静を適切に行うことができる

SBOs ;

- ① 鎮静の適応と限界、その問題点について述べるができる
- ② 患者と家族に鎮静について説明し、必要時に適切な鎮静を行うことができる
- ③ 他の医療従事者からの鎮静についての相談に応じ、適切に対応できる
- ④ 鎮静についての社会的な議論について把握している

1 3. 疾患の軌跡

G10 ; 疾患の軌跡について理解し、予後予測ができる

SBOs ;

- ① 疾患の軌跡の違いを述べるができる
- ② 予後予測ツールを理解し、限界についても述べるができる
- ③ 予後予測にもとづき、患者・家族に適切な説明をすることができる

1 4. 臨死期のケア

G10 ; 臨死期における患者・家族に対し適切に対応できる

SBOs ;

- ① 患者が死に至る時期および死後も、患者を1人の人として、尊厳をもって接することができる
- ② 看取りの時期及び死別直後の家族の心理に配慮できる
- ③ 看取りの時期であることを適切に判断できる
- ④ 終末期の輸液について十分な知識を持ち、適切に施行できる
- ⑤ 患者と家族の意向を尊重し、患者の病態にあわせて看取りに向けて必要な指示を出すことができる
- ⑥ 看取り前後に必要な情報を、適切に家族に説明できる

15. 家族ケア

GI0 ; 家族が抱える問題に気づき、他職種と協働して適切なケアを行うことができる

SB0s ;

- ① 家族背景を把握することができる
- ② 家族の構成員が持つコミュニケーション・コーピングスタイルを理解し、適切に対応できる
- ③ 家族の構成員がそれぞれ病状や予後に対して異なる考えや見通しを持っていることに配慮できる
- ④ 家族の負担感や疲労、気持ちの揺れに気づき、共感姿勢で適切に対応できる

16. 遺族ケア

GI0 ; 死別・喪失による悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる

SB0s ;

- ① 死別・喪失による悲嘆反応のパターンについて述べることができる
- ② 複雑な悲嘆反応をきたしやすい条件(リスクファクター)を述べることができる
- ③ 予期悲嘆に気づき、適切に対応できる
- ④ 死別を体験した人を支援できる
- ⑤ 複雑な悲嘆反応に気づき、適切に対応できる
- ⑥ 抑うつを早期に発見し、専門科に紹介することができる

17. 医療従事者への心理的ケア

GI0 ; スタッフが常に死や喪失体験と向き合っていることを認識し心理的ケアを行うことができる

SB0s ;

- ① チームメンバーや自分の心理的ストレスを認識することができる
- ② 自分自身の心理的ストレスに対して他のスタッフに助けを求めることの重要性を理解できる
- ③ 自分自身の個人的な意見や死に対する考え方が患者やスタッフに影響を与えることを認識できる
- ④ ケアが不十分だったのではないかという罪責感をチーム内で話し合い、乗り越えることができる
- ⑤ スタッフサポートの方法論を知り実践することができる
- ⑥ 正常の心理反応と燃え尽き反応を区別できる

18. チーム医療

GI0 ; チーム医療を実践することができる

SB0s ;

- ① チーム医療の重要性と難しさを理解し、チームの一員として働くことができる
- ② リーダーシップの重要性について理解し、チーム構成員の能力の向上に配慮することができる
- ③ 他職種のスタッフおよびボランティアについて理解し、お互いに尊重しあうことができる
- ④ 基本的なグループダイナミクスとその重要性について述べることができる

19. コンサルテーション

GI0 ; 緩和ケアについてのコンサルテーションを適切に実施することができる

SBOs ;

- ⑤ コンサルテーション活動について述べることができる
- ⑥ 依頼者からの依頼に対して、適切な推奨および直接ケアを行うことができる
- ⑦ 推奨および直接ケアは患者や家族の個別性に配慮し、診療ガイドライン等に基づいて行うことができる
- ⑧ アセスメントや推奨の内容について依頼元の医療従事者と話し合うことができる
- ⑨ 必要に応じて依頼元の医療従事者とカンファレンスを行うことができる

20. 地域連携

GI0 ; 地域の医療機関と連携して、地域に適した医療を提供することができる

SBOs ;

- ① 自分が所属する組織の地域における役割を述べることができる
- ② 周囲の医療機関と協力して緩和ケアを提供することができる
- ③ 地域の医療資源、社会思弁を把握できる
- ④ 患者と家族が希望する両方場所に移行できるよう支援することができる
- ⑤ 在宅医療に携わる医療従事者と連携し、在宅緩和ケアについて相談または実践することができる

21. 腫瘍学

GI0 ; 腫瘍学についての知識を得、患者にとっての最善の医療の選択に関わることができる

SBOs ;

- ① 基本的な腫瘍学に関する知識を得ることができる
- ② 外科療法の適応について理解し、適切に専門科に相談することができる
- ③ 放射線療法の適応について理解し、適切に専門科に相談することができる
- ④ がん薬物療法の適応について理解し、適切に専門科に相談することができる
- ⑤ わが国のがん医療の現状について述べることができる
- ⑥ 以下に挙げたオンコロジックエマージェンシーに対し、専門科と協力して適切に対応できる
 - ・ 高カルシウム血症
 - ・ SIADH
 - ・ SVC 症候群
 - ・ 肺血栓塞栓症
 - ・ 大量出血（吐血、下血、喀血など）
 - ・ 脊髄圧迫
 - ・ 頭蓋内圧亢進症

22. がんのリハビリテーション

G10 ; がんのリハビリテーションの理念や知識を習得し、患者にとっての最善の医療の選択に関わることができる

SBOs ;

- ① 基本的なリハビリテーション医学について理解できる
- ② 苦痛の軽減やADL/QOL維持向上に関し、リハビリテーション的な手法による解決方法を探ったり、マネジメントすることができる。
- ③ 在宅療養に移行する際、適切な環境設定や補助的手段、社会資源活用などについて提案したり、専門職種と協働もしくはコンサルテーションすることができる。

23. 教育・研究

G10 ; 緩和医療の専門家として、常に最新の知識を得るだけでなく、緩和ケアの教育、研究にも携わり、緩和医療の発展に寄与することができる

SBOs ;

- ① 臨床現場で起こる日常の疑問について、常に最新の知識を得るよう心がけることができる
- ② 教育の基本的な手法について知り、実践することができる
- ③ 所属する各機関及びその地域において緩和ケアの教育・啓発・普及活動を行うことができる
- ④ 臨床研究の重要性を知り、緩和ケアに関する未解決な問題に対して行われる臨床研究に参加することができる
- ⑤ 医学論文の批判的吟味を行うことができる
- ⑥ 緩和ケアに関する学会・研修会に積極的に参加し、診療・研究業績を発表することができる